

第 20 回日本木材学会九州支部大会 (福岡) のご報告

近藤 哲男

本年度から、日本木材学会九州支部長を仰せつかり、ご挨拶を述べたばかりですが、同時に本年第 20 回日本木材学会九州支部大会福岡大会の大会委員長も仰せつかりました。

本年度は、以下のように 9 月 2 日(月)～ 3 日(火)に、雨模様の足元の悪い中、杉山会長にもご参加いただき、70 名以上の参加者と口頭・ポスター発表計 34 件の発表をいただき、成功裏に終了しました。杉山会長からも、「特別講演をはじめとし、発表内容も充実しており、先生方の若手を育てようという思いも強く感じられる素晴らしい大会でした。」とのお言葉をいただき、実行委員会としても大変満足 of いく大会であったと自負しております。

第 20 回日本木材学会九州支部大会 (概要)

日 時：平成 25 年 9 月 2 日(月)～ 3 日(火)

場 所：九州大学 箱崎キャンパス 国際ホール
(福岡市東区箱崎 6 丁目 10 番 1 号)

研究発表会：口頭発表(フェーズ 1 5 件, フェーズ 2 10 件)

および展示発表 19 件

講演会：「古い木をよみがえらせる！」

講演 1. 講演者：吉田茂二郎 氏

九州大学大学院農学研究院 教授

木質什器の修復と再利用を目指して

—九州大学農学部と同総合博物館の取り組み—

講演 2. 講演者：本田 光子 氏

九州国立博物館 学芸部 特任研究員

木がまもる文化、木が伝える文化財

—九州国立博物館の取り組み—

趣向がないか検討しましたが、如何せんなかなか福岡の木材学会関連の特徴が見当たらないままでおりました。

折しも、九州大学が現在、福岡市西区の伊都キャンパスに移転最中でもあります。実は、創立当時から 100 歳に至る多くの木材家具が掘り出され、廃棄の憂き目を見ておりました。それを講演者の吉田先生が憂いて、家具の再生運動を提案されました。当初は、部局の先生方も正直に言ってそれほど関心が高いとは言えない有様でしたが根気よく提案され、同時に、古い家具を福岡県大川市の家具職人の方たちに再生していただき、信じられないほどの名品家具に生まれ変わって大学に戻ってきました。現在、農学部にもその一部が展示され、見学者の目を奪うとともに、教員の方も自分たちの研究室の隅に追いやられた古い家具を素晴らしい名品家具に再生したいという気持ちに変わってきました。ご講演も、まさに趣旨の通りで、会場に実際に修復された机も展示いただき、さらにほかの展示品の見学ツアーも行われました。

また、福岡県には九州国立博物館があり、特任研究員・本田 光子に、同博物館の木の文化に関する取り組みとともに、如何に日本が独特の木の文化を今までに伝えてきているかを文化財保の立場からお話をいただきました。僭越ながら、私ども実行委員会の期待以上に、趣旨にご賛同いただいた両先生から、聴衆者一同が「木によるアメニティー、文化」を改めて感じさせていただきました。

(こんどう てつお：九州大学大学院農学研究院)

私ども実行委員会委員は、「福岡ならでは」という